

学校Webページ大改造プロジェクト

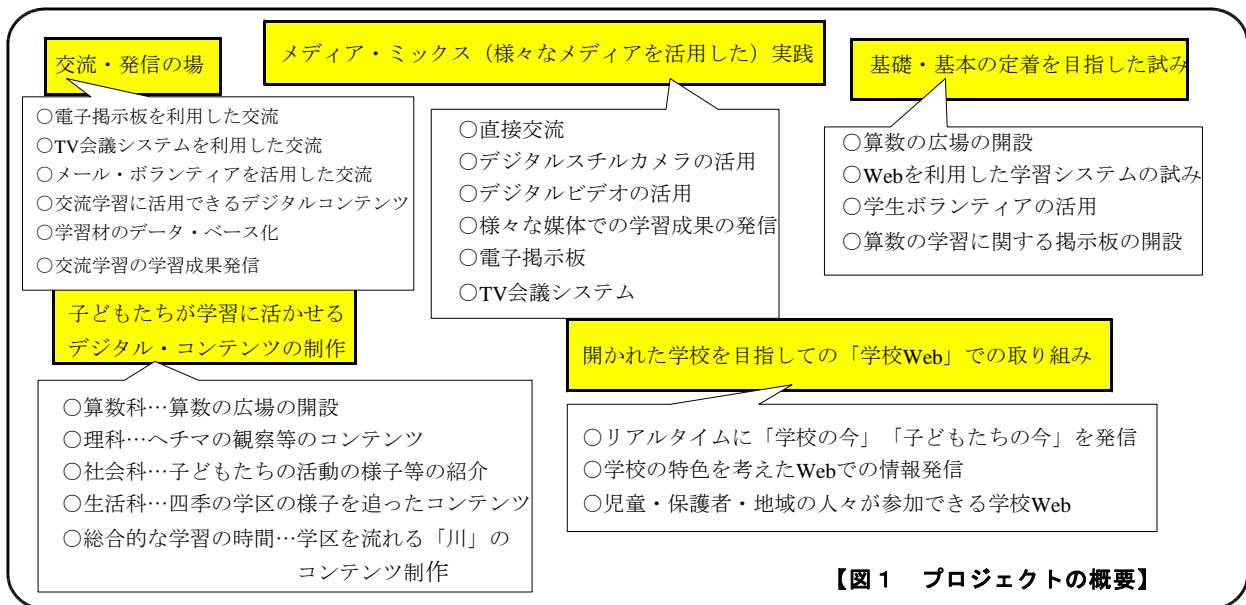
—情報のキーステーションを担う学校Webの構築と活用を通して—

仙台市立北六番丁小学校 教諭 永井 一也
 kazuya99@sendai-c.ed.jp: <http://www2.sendai-c.ed.jp/~kitaroku/>
 キーワード：小学校, 全学年, 学校Web, 学校間交流, TV会議, 電子掲示板,
 学生ボランティア, メール・ボランティア

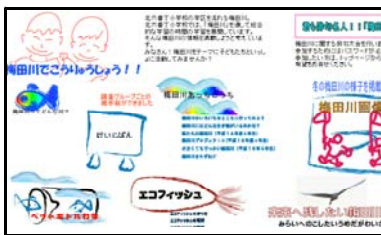
1. はじめに

各学校で学校Webページが開設され、様々な情報が発信されている。本校では、「学校の今、子どもたちの今」を地域に発信することを開設の理念として掲げ、リアルタイムに児童や保護者、地域へ向けて情報を発信している。また、児童の学習成果の発信の場としても活用し、様々なコンテンツも充実してきている。さらに、児童の学習成果の発信に対してメールを通して交流する「メール・ボランティア」の取り組みも7年目を数え、学校外の様々な地域の方々から、児童の学習のねらいにそった助言や支援を得、児童の学習活動をさらに深め、発展させる試みも行っている。しかし、まだまだ学校Webページの持つ可能性を十分に生かし切るまでは至っていない。Webページが児童の身近な存在となったこの時に、学校Webページの持つ可能性をさらに追求し、これまでの学校Webページを通じた実践を振り返りながら「学校Webページ大改造プロジェクト」をテーマに、学校Webページで何ができるのかを実践を通して明らかにする。

2. プロジェクトの概要



【図1 プロジェクトの概要】



【図2 交流の広場】

<http://www2.sendai-c.ed.jp/~kitaroku/shell/umedahome.html>



【図3 交流掲示板】

<http://www2.sendai-c.ed.jp/~kitaroku/shell/keiziban/keiziban.htm>



【図4 算数の広場】

<http://www2.sendai-c.ed.jp/~kitaroku/3suu/main.html>

3. これからのこと

今までの学校Webページの制作を通して積み重ねたことをベースに、更なる可能性を追求してきた。あらためて、「開かれた学校」を目指す取り組みの中での学校Webページの果たす役割の大きさを認識できた（アクセス・ログの解析等から）。また、他校や地域との交流の場、あるいは学習成果の発信の場としての価値の高さを再確認することができた。現時点でも、活用し切れていない部分があるが、今後、登場してくるであろう学校Webページや学習に活かせるIT機器を、いかにタイムラグのない形で現場に取り入れていけるかが重要であろう。また、それは私たちの創造力と情報収集能力にかかっているように思える。まだまだ、実現できることは多い。



【写真1 学校間交流・直接交流の様子】